

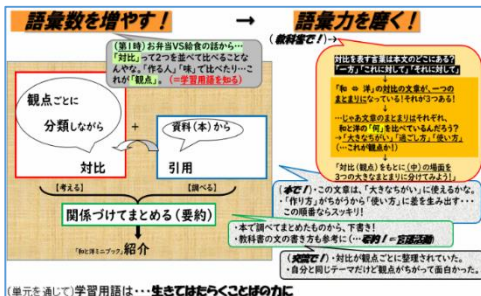
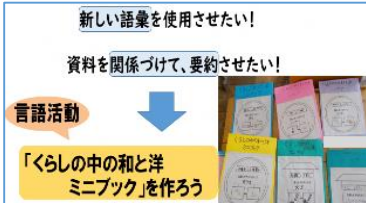
取組みテーマ：言語能力の確実な育成をめざして ～言語活動の充実とともに～

背景・取組みの方向性

- これまで物語教材を通して、「言語活動で培う生きてはたらくことばの力」の育成に取り組んでいたものの、「語彙力」と「表現力」が課題として見えてきた。
- 語彙の乏しさから相手に伝えたいことが伝わりにくい、内容的深まりがあまり見られない、文章理解が不十分、言葉の重みや豊かさ欠ける、要点をまとめることが苦手な児童が多い。
- そこで、「ことばの力」を確実に育むために、語彙数(量)を増やし、語彙力を磨く(質を高める)ことをめざし、取組みを進めることにした。
- 【語彙数を増やす】→ 朝学学習の実施・リズム漢字(リズムにのって楽しく音読み、漢字を学習する)の実施・学習用語(教科書や教室で初めて出会うことば)の定着。
- 【語彙力を磨く】→ 国語科の他分野(説明文・話す聞く・創作等)でも、学習用語を積極的に活用する。
- 国語科で習得したことばの力を他教科に活かし、言語活動の充実に繋げていく。

具体的な取組み① 国語科における言語活動の定着

- 単元でつけたい力を明確にし、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージ
- つけたい力を育むためのふさわしい言語活動の設定
- 指導計画、評価規準、評価方法の設定
- 単元のまとまりを見通し
- 一単位時間の学習活動を設定



- 「資力・能力を育成する」ための国語の授業づくり(逆向き設計で)
- ①単元でつけたい力を明確にして、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする。
 - ②つけたい力を付けるためにふさわしい言語活動を設定する。
 - ③つけたい力を付けるための指導計画と、評価方法・評価規準を設定する。
 - ④単元のまとまりを見通し、一単位時間の学習活動を設定する。
- 国語の授業づくりハンドブックの活用

(別添資料①)

具体的な取組み② 生きてはたらくことばの力の育成

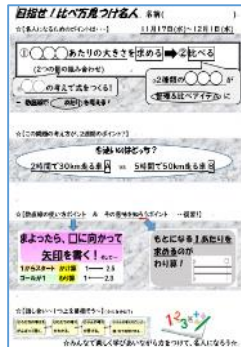
- 子どものゴールの姿の実現に向けて、一年間の逆向き設計
- 思考力・表現力の育成のための言語活動(例：算数「立式の根拠を説明する」)

私の考えを聞いて下さい。

- ・まず…
 - ・次に…
 - ・最後に…
- なぜなら
～だから(理由)

どうですか?

- 《気づいたことを言おう》
- 理由→○○だから～だと思おう。
- 例→もし○○って考えたら…
くわしく→○○につけたして…
かんたんに→○○した方がかんたん!
→ここは○○できるよ!
- ◎とくらべて→○○さんと同じで(ちがって)…
しつもん→なぜ○○なのですか?



ポイント

- ・系統立てた学習計画
- ・既習事項の活用
- ・単元の見通しが持てるワークシート・掲示物
- ・振り返りの積み重ねが見えるワークシート
- ・「まず、次に、最後に」「～だから」を使って説明
- ・問題解決型学習(見通し→自力解決→練り上げ→ためし→まとめ・振り返り)

取組みの成果と課題、今後に向けて

- 成果
 - ・漢字や言葉の力の正答率の向上が見られる。(単元テスト正答率：一学期70%→二学期75% 朝学漢字検証テスト正答率：一学期81%→二学期84%)
 - ・物語教材での逆向き設計が指導者に定着してきている。単元のゴールを見通した学習が、指導者の学習計画にも子どもたちの意識にも見られる。
 - ・言語活動の充実をめざし、学習用語の活用等、言葉の力を意識した授業づくりが増えている。
- 課題
 - ・国語科での学びを他教科の学習にさらに生かす必要がある。組織として授業づくりや学力向上の取組みを発信・推進していくことに課題がある。
 - ・特に中高学年において、伝わるように話す、推敲する、事柄や順序を考えて書く、要約する、主語と述語の関係を捉える等の課題が見られる。
- 今後に向けて
 - ・物語教材での成果(逆向き設計や言語活動の充実等)をもっと他へ活かしていく(国語の他分野、理科、英語、道徳等他教科にも)。
 - ・主語述語の関係を正しく捉える、順序を考えて書く、要約する、の3点を中心に焦点を当て、学校として力を付けていくための手立てに取り組んでいく。